

す。初めての選挙の時に高校生の方が、寄って来てですね。『私 16 歳、選挙権持つまで 4 年かかりますから、それまで頑張って立候補して下さい』と言われました。綾羅木の駅前です。だて整形外科の前です。犬猫病院があります。

そこで今、私インターネットで訴えています。私の行き着いているところ、下関に生まれて、下関に生きてきました。私の選挙の結論は、人類の全てを救う政治力は、どうしたらいいかということに日本も参加しなければと思うんですね。憲法 9 条の改正とか小さ過ぎるんです。私にとって。みんなが幸せでない日本をどう守るんです。軍備で固める前に、青少年が非正規で差別されて、社会が空洞化しているじゃありませんか。店がみな潰れて、家が潰れているじゃありませんか。日本の国は、皆さんマスコミの皆さんが考えるより大変ですよ。申し上げておきます。もっとしっかりしてください。お願いですから。もうこの空洞化を止める、人口減少について、村岡知事さん今何て言っているんです。消費税の値上げを当てにして、赤ちゃんとか幼児のことを予算組んでいらっしゃるでしょ。独立した青少年に予算を組むとか。青少年が家庭を持ってないとか。持つべき青年たちが結婚に乗り出せないとか。子供が産めないとかいうことに着目がないじゃありませんか。私が議員になったらそれやります。やらなきゃいけないんです。これは損得抜いて。今、一番日本の国で大変なのは、非正規の差別の問題です。同一賃金同一労働、尊重しなければいけません。これをしないと青年たちが家庭を持ってないから、子供が出産なされないし、家庭を持たないと女性も子供が産めるのか産めないのか人生の把握がつかないんですよ。幸せが。日本の憲法 12 条には、幸福追求権があるじゃありませんか。僭越お許し下さいませ。私は申し上げますけど、日本を軍備で固めて、世界を軍備で固めるより、人生が普通で歩めるという柔らかい幸せが積み上げられる社会にしないとだめです。世界どこも。そうして私街頭で訴えさせて頂いてるんです。青年が泣いて下さったり、手を持って下さったり、お年の方がもったいなくもねえ。『入れますよ』と励まして下さいます。それは、真実をついているからじゃないでしょうか。

皆さん、私のしていることは、日本の選挙の歴史に残ることですから、大事にして下さい。吉田松陰さんは、日本の国のことを考えて、生きることを考えましたね。

私は粗末な一人の人間ですけどね。世界の選挙は、投票権を義務化しない限り、世界は救われないという認識に到達しております。これが私が 50 年 19 度立候補する行き着いた到達点でございます。投票権を義務化する勇気を人類が持った時にですね。人類の政治レベルは上がると思います。

あ、失礼しました。これでやめます。お開きにさせて下さい。ごめんなさい。

記者殿「無所属ですね」「政党も無しですね」

吉村親房「皆さん、ここ受け止めて下さい。林義郎先生と安倍晋太郎先生がね。お声かけて頂いて、林先生と安倍先生は、力があるから誰でも議員にできます。私の道はそうじゃないんです。議会にはね。自主立候補者が必要です。

それで、私はこの（『下関漁港生産卸売市場の選別御婦人 108 名の人権救済問題解決』と